受付番号	2026-37		
許可番号	大歯医倫　第111486号		
研究課題名	NDBオープンデータを用いたCOVID-19大流行に伴う小児耳鼻咽喉科の手術施行患者数の推移に関する検討		
研究責任者	小川 真	申　請　者	小川 真
研究終了日	2027年3月31日		
所　　属	大阪歯科大学附属病院 耳鼻咽喉科	所　　属	大阪歯科大学附属病院 耳鼻咽喉科
職　　名	専任教授	職　　名	専任教授

申請の概要

本研究は、厚生労働省のレセプト情報・特定健診等情報データベース（NDB）オープンデータを用いた記述疫学的観察研究である。申請者らはこれまで、大阪市立総合医療センターの単施設データから、COVID-19大流行とその5類移行が小児のアデノイド切除術・口蓋扁桃摘出術・鼓膜チューブ留置術の施行件数や患者の紹介数に多大な影響を与えたことを報告してきた。特にアデノイド切除術・口蓋扁桃摘出術については、COVID-19の第5類以降後に施行件数・紹介数が回復したのみでなく2024年には大流行前を上回る激増（post-pandemic surge）が認められた。申請者は、この現象は、日本全国規模で政府主導、および個人単位の感染予防対策が一斉に導入されたことにより市中の病原体が減少し、その後一斉に解除されたことで、小児の免疫感作が同期して、アデノイド増殖・口蓋扁桃肥大患者の発生が集中したことによるものと考えた。また鼓膜チューブ挿入術に関して、このような激増は認められず、遅れて徐々に回復し、2025年になって大流行前の水準に回復した。一方、気管切開術の施行件数は大流行前後を通じて大きく変わらなかった。しかしながら、これらの現象が日本全国の小児医療においても普遍的なものであるか否かは解明されていない。そこで、全国規模のNDBオープンデータより小児の扁桃関連手術件数、関連疾患レセプト数、および医療費総額の時系列推移（2019年～2024年）を抽出し、COVID-19大流行が日本全国の小児耳鼻咽喉科手術需要に与えた長期的影響を調査し、前回の一施設における検討で見られた回復時の特徴が日本全国の統計データでも同様であるのか否かを検証する。